

## 輝ける未来へ 新たなスタート

### 福島県立只見高等学校卒業証書授与式

春を思わせるさわやかな日差しが校舎を照らした3月1日、平成24年度第49回卒業証書授与式が只見高等学校体育館で行われ、菅野諭只見高等学校長から、卒業生代表の五十嵐愛さんに42名の卒業証書が手渡されました。

菅野学校長は式辞で「一歩ずつ目標に向かって進んでください。これからは自分自身で決断し前に進むこと。決断は人を成長させます。地域の担い手となり町の発展に寄与することを願っています」と述べました。

続いて目黒町長は「ふるさと只見の空気、水、人を忘れずに頑張ってください。只見町を支える力となってください」と祝辞を述べました。

在校生代表送辞で、島谷裕希さんは「先輩方と過ごした時間は宝物です。これからも先輩方を応援しています。只見高校卒業生としての誇りを胸に頑張ってください」と述べました。

また、卒業生代表答辞で、増田快さんは「辛いことや苦しいことも只見高校でみんなと生活したことを思い出せば乗り越えられる。今まで培ってきたことを生かし前進していく。今日までお世話になった皆様に感謝いたします」と述べました。

卒業生の皆さん、おめでとうございます。



▲卒業証書を受け取る「五十嵐愛」さん

## 仲間との生活ステップに新たな旅立ち

奥会津学習センターでは、2月28日、只見町山村教育留学生第9期生の送別式が行われ、平成24年度は留学生11名が志を胸に巣立ちました。

はじめに、齋藤修一教育長が「目標や希望をしっかりと持って実現に向け頑張ってください」とあいさつを述べました。

続いて3月1日に卒業式を迎える留学生からは「3年間色々なことを学んだ。これを糧にこれからも頑張っていく」、「ここでの生活で学んだことを生かし目標に向かって頑張っていく」などと3年間を思い起こし、あいさつをしました。

齋藤教育長からは、留学生一人一人に記念品が贈られ、送別の意を表しました。

送別式には、学習センターを管理する目黒淳一NPO法人ゆいネット只見理事長も出席され、あいさつを述べ留学生を激励しました。

### 只見町山村教育留学生 第9期生送別式



▲志を胸に新たな道へと歩み出す第9期生

## 民 雪おろし体験ボランティア 家の雪おろしで豪雪を体感

NPO法人ハートネットふくしま(吉田公男理事長)では、2月2日と3日に「雪おろし体験ボランティア」を只見町で行いました。参加者は郡山市や兵庫県たつの市、奈良県奈良市、東京都杉並区から集まった11人、地元ボランティア団体の只見町シェルナッハの会(山岸秀弥会長)と、3軒の民家の雪おろしに汗を流しました。この取り組みは、ハートネットふくしまが、阪神大震災で出会ったボランティア仲間呼びかけで実現、今回で16回目。一昨年の新潟・福島豪雨災害の際にも只見町を訪れボランティア活動をされています。



▲除雪作業に取り組むボランティアの皆さん

## 只 ブナセンター講座 見の伝統食「トチ餅づくり」を体験

2月13日にブナと川のミュージアムで「トチ餅づくり」が行われ12名が参加しました。1月18日に行なったトチの皮むきからはじまり、今回まで全4回の講座となりました。アク抜きをしておいたトチの実が、柔らかくならず苦労しましたが、最後には4升のトチ餅ができあがり、あんこやきな粉をまぶし、参加者全員で試食しました。参加者はトチ餅作りの大変さを痛感しながら、そのおいしさを満喫しました。



▲トチ餅のおいしさに感動の参加者

## 只 森林環境税活用記録事業 見町のアケビつる細工が選定



▲取材を受ける酒井洋子さん

只見町の酒井洋子さん(福井)がつくるアケビつる細工が、福島県の森林環境税を活用した記録事業として収録されました。これまでに三島町のマタタビ細工、檜枝岐村の曲げ物などが森林文化記録映像として収録されており、只見町ではアケビつる細工が選定されたものです。洋子さんは義父の故義男さんの指導を受けた後、約40年もつくり続けています。この映像は25年度中に県の森林環境税のホームページから閲覧できるようになりますので、ご覧ください。

## 個 自然観察会 性的な冬芽を観察



▲雪の上で冬芽を観察する参加者

只見町ブナセンター主催で2月10日、只見川公園を会場に「冬芽の観察会」が開かれました。参加者は11名で、高原豊さんをガイドに、みんなでかんじきをはき、コブシやハナミズキの花芽、堅い芽鱗におおわれたブナの冬芽、ねばねばした物質でおおわれて寒さから身を守っているトチの冬芽など個性的な冬芽を観察しました。参加者は、かんじきをはいて歩くのがとても楽しかったと笑顔を見せていました。